番号	135	災害復興記念		
所在地		太良町多良１－１１　太良町歴史資料館前		
災害別		昭和３７年（１９６２）　水害		
目的別		記念碑	建立年	昭和４０年１０月
特記事項				

昭和３７年７月８日の水害は、鹿島・太良方面に大きな被害をもたらした。特に、太良町大浦地区では地すべりが発生、亀の浦、里地区では土砂により３２戸の住家が押しつぶされるなど、町全体で４４名の尊い命が失われた。太良町内にはこの災害の復興記念碑や慰霊碑などが各地区に建てられている。この「災害復興記念」の碑は、以前は移転前の旧太良町役場前にあったが、今は太良町歴史民俗資料館の前に移されており、碑の横には、「大災害の記録」として、当時の被害の状況や復旧復興に向けた取り組みを記した石碑が添えられている。

「大災害の記録　昭和三十七年七月八日一昼夜の降雨量八百ミリをこえる局地的集中豪雨により、町内各所で崖くずれ、地すべり、山津波が相次ぎ、大小河川は大氾濫を起こし、濁流は人家や田畑を押し流して、電灯は消え、一切の通信は杜絶、交通は完全に遮断された。特に権現山の地すべり、里、その他の地区にお

ける大崩壊で一瞬の間に四十四人が生埋めとなり、重軽傷者百二十七人、小学校二棟十四教室をはじめ公民館、郵便局、住家百余戸の建物が全壊流失する大惨状を現出、被害総額二十五億円にのぼった。

町は、災害対策本部を設け人命救助、罹災者への衣食住の手当、医療防疫、電灯電話の緊急開設、応急災害住宅の建設、自衛隊による道路の啓開等の措置を講ずるとともに、県知事に請い災害救助法の発動により救護の万全を期した。

応急復旧が一段落すると直ちに小学校、道路、河川、有線放送等の復興計画を樹立、早期完工に総力を挙げ、二十億円の巨費と延べ百万人をこえる労力を投入して改良復旧を行ない、加えて新しい建設事業も完成、今や校舎、体育館、道路、漁港海岸堤防等面目を一新するに至った。

ここに復興記念の碑を建て、国、県並びに各種団体の援助と、町民の精進努力とに感謝をささげ、「健康で美しい町、豊かで楽しい町、親切で仲よい町」の建設のため、更に前進することを祈念するものである。

昭和四十年十月十一日　太良町長　西村壽雄　　太良町議会議長　原田幾栄

災害の概要　　死亡者四四人　重軽傷者一二七人　家屋全壊一八四戸　一五、四五七万円　小学校舎二棟全壊運動場埋没等四、五一八万円　支所・母子センター・両公民館等　八九九万円　有線放送電話施設全壊（五十回線）二、一九七万円　道路橋梁、河川、砂防、漁港等（一八八ヶ所）六〇、九九四万円　農地・農道・井堰・水路（四九一ヶ所）一一七、八〇五万円　農林・水産・地すべり関係二一、二〇五万円　商工業者商品その他三、二〇〇万円　鉄道・電話・電灯等（七三八ヶ所）二四、八八八万円　合計二五一、一六三万円」（裏面）災害復旧関係者氏名、災害復旧特別委員等氏名（略）

国土地理院電子国土 Web